

2006年4月26日

各 位

双日株式会社

双日、イギリス領北海およびカタールで
相次いでガス・原油の生産を開始
～ エネルギー資源分野における権益投資の成果 ～

双日株式会社は、イギリス領北海で15%の権益を保有するトールズガス田においてガスの生産を開始致しました。トールズガス田は、キルマー鉦区およびギャロー鉦区から成り、両鉦区を合わせた確認埋蔵量は原油に換算しますと約2250万バレル（双日持ち分換算約340万バレル）となります。生産されたガスはイギリス国内の大手エネルギー会社に販売されます。

今回生産が開始されたのはキルマー鉦区で、同鉦区からの当初生産量は日量1万バレル、双日の持ち分生産量に換算しますと日量1500バレルとなります。生産井をさらに掘削して今年中にギャロー鉦区からもガスの生産を開始する予定で、ギャロー鉦区が生産が始まりますとトールズガス田全体で日量15000バレル（双日持ち分換算日量2200バレル）の生産規模となります。一方、双日はイギリス領北海でグリフォン油田およびグリフォン・サウス油田で生産中の権益も保有しており、生産原油をイギリスやフランスの国際石油資本（メジャー）に販売しています。北海全体での双日の持ち分生産量は、ガス田と油田を合わせますと原油換算で日量4900バレルとなります。

また、双日は、カタールにおいてコスモ石油株式会社と共同で設立したカタール石油開発株式会社（本社：東京都港区、代表者：岡部敬一郎、双日14.2%出資）を通じて原油の生産を開始しました。生産された原油は、カタール国ハルル島よりカタール・マリン原油として出荷され、全量をコスモ石油の製油所に持ち込みます。当初の生産量は日量6000バレル（双日持ち分換算日量800バレル）ですが、追加開発により2008年3月までにピーク生産量の日量1万バレル（双日持ち分生産量日量1400バレル）を見込んでいます。

双日がメキシコ湾で権益を保有する28鉱区の原油・ガス田は、2005年のハリケーンで被災し、一部で操業が停止していましたが、現在は生産が完全に復旧しています。双日は、石油・ガスの上流権益への投資に加え、FPSO (Floating Production Storage Offloading system)、リグ (掘削設備) など石油・ガス生産設備への投融資および国内外の子会社を通じた石油・ガスの販売、下流へのトレーディングまで、複合的に石油・ガス事業を派生させて展開する取り組みを行っております。今後もこれまでに培った経験、技術、人材をフルに活用し、さらに積極的にエネルギー資源分野への展開を行って参ります。

【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社 広報部 03-5520-3185